

# 新潟県佐渡・下越地方の2チーム分けジャンケンのかけ声 ～ Picasa ウェブアルバムと Google Earth で作る言語地図～

*The Use of Google Earth in Making Dialectal Distribution Maps  
---the Words for 'Janken' in Sado and Kaetsu Region---*

佐々木 香 織\*

## 要旨

本学の日本語学受講学生の協力により実施した、新潟県佐渡・下越地方の中学生を対象にしたジャンケンのかけ声調査から、2チーム分けジャンケンのかけ声の分布について分析した。その際、Picasa ウェブアルバムの「場所の編集」機能を利用し、73の調査校別に、かけ声の各語形の割合を示した円グラフの画像を Google Earth 上に表示し、調査地域全体のかけ声の分布を示す言語地図を作成し、その有効性を検証した。なお、この地図から「ウラオモテ」系のかけ声が燕市以外にも佐渡市と県央地域（三条市、見附市）のいくつかの学校で使われていること、新潟市全体では「グーパー」系の各種のかけ声が多く、特に北東部では「ぐーろぐーろ ぐーろっぱ」類が優勢であるのに対し、西隣の燕市、三条市、東隣の新発田市では「グーチョキ」系のかけ声が多数派で、特に県央地域では、隣接する中学校区でも異なるかけ声が使われていることもあることなど、その詳細な分布が明らかになった。

キーワード：2チーム分けジャンケン、ウラオモテ、言語地図

Picasa（ピカサ）ウェブアルバム、Google Earth（グーグルアース）

## 1. はじめに

本稿では、2013年6月から7月にかけて新潟国際情報大学の日本語学受講学生の協力のもとに行った、中学1年生を対象にした新潟県佐渡、下越地方におけるジャンケンのかけ声調査の結果について分析する。ここでは2チーム分けジャンケンで使われるかけ声について、Picasa ウェブアルバム（注1）と Google Earth（注2）を利用して、かけ声の分布図を作成し、「ウラオモテ」など外部から入った新方言や各地に特徴的なかけ声について、相互の関係や、伝播の過程について考察する。この調査では普通のジャンケンのかけ声についても質問したが、全国共通語ともいえる「(さいしょはぐー) じゃんけんばい」類がほとんどであったため、本稿では2チーム分けジャンケンについてのみ扱うことにした。同上学生には、授業の課題として調査に協力してもらい、グループごとに担当地域の調査票の配布と回収、結果の集計を担当してもらった。地域ごとのデータはすべて筆者が調査票と照合、確認してから、とりまとめて分析を加えた。

そもそも新潟県内の2チーム分けジャンケンのかけ声について調査し始めたきっかけは、同上講義のなかで受講学生を対象に筆者が実施した調査（佐々木2012）で、新潟市及び周辺地域は、

---

\* SASAKI, Kaori [非常勤講師]

かけ声のバリエーションが豊富で、中でも関西方面から入ったと思われる手の甲と掌を使った「ウラオモテ」系の2チーム分けをするという学生が数名いることが明らかになり、より詳細な分布を探り、伝播の道筋を明らかにしたいと考えたためである。

言語地図を作成するにあたり、鉄道網が発達していない地方では、鉄道路線に沿って「線」状に表すことは難しく、また日本言語地図のように、調査地点に語形を表す記号を一つ一つ入力する方法では、本調査のように一部の狭い地域に非常に多くの語形が出現する場合や、人口密度が大きく異なる地域を含む場合、地図が見づらくなる恐れがあったと考えた。実際、本調査には佐渡市のように鉄道のない地域がある一方で、新潟市のような政令指定都市も含まれており、学校ごとの回答者数も6名から325名までと様々であった。さらに前述の通り、かけ声のバリエーションも非常に豊富であったことから、従来の方法では作図しにくいと考えた。そこで本稿では、学校ごとに各語形の割合を円グラフで示し、住所を入力するだけで、Google Earthの当該地にグラフを貼り付けられるPicasaウェブアルバムの「場所の編集」機能を利用して、地図上の調査校の位置にそれらの円グラフを表示するという方法で、分布図を作成した。本稿では、調査結果の分析とあわせて、このような、各種のインターネット地図サービスなどを利用した言語地図の可能性についても検討を加える。

福嶋(2012. 9)で述べられているように、近年、GISの利用が進み、MANDARA(注3)を始め、様々なソフトが開発されており、またデータの電子化(注4)により言語地理的データの共有化や、データベース化により大量のデータを計量的に扱うことも、それらを地図に反映させることも、容易になってきた。グーグルマップを利用した日本大学文理学部のプロジェクト(注5)や、中国語の方言をグーグルマップ上に示したPhonemica(注6)、さらに井上(2011. 2)のようなグーグルマップの検索機能を利用した新しい言語地理学など、GISを利用して様々な言語地図が作られ、研究が進められている。今後さらにデータの共有や、ウェブ上でのデータ収集、公開が進むものと考えられる。また、最近では、様々なインターネット地図サービスが無料で手軽に利用できるようになり、研究に限らず、個人が自分のテーマ地図(旅先の写真を地図上に表示した旅行記地図やお気に入りの店マップなど)を簡単につくることができるようになった。一般的にも写真を地図に関連付けたいという強いニーズがあったためだろう。本稿でGoogle Earth上にグラフを表示させるために使ったPicasaウェブアルバムは、本来、写真や動画を共有するためのものであるが、この機能がどのように言語の研究に生かせるか考察し、その可能性を探る。

## 2. 調査の概要

本調査は、2013年6月から7月の間に、表1の調査協力校の全中学1年生(中学校でできなかった場合は、学区内の全小学6年生)を対象に実施したアンケート調査である。協力校の先生方には、文書または電話で、休み時間や帰りの会等での実施を依頼し、先生方の指示のもと児童・生徒には無記名で自分が使う、普通のジャンケンと2チーム分けのジャンケンのかけ声を調査票(注7)に記入してもらった。また、出身小学校や聞いたことがあるかけ声についても、語形や聞いた場所や時期等を記入してもらった。欠席者や記入しない生徒もいたので、全員から回答を得たわけではないが、各中学校区のジャンケンのかけ声を知る上では十分なデータが得られたと言える。地域別の調査実施率と回答率は表2の通りである。今回の調査では佐渡市と下越地方の新発田市、聖籠町、五泉市、阿賀野市、新潟市(中央区を除く)、弥彦村および中越地方の三条市、見附市の73の学校、5,544名から協力を得ることができた。

表1 調査協力校と各校の回答者数

市区	学校名	回答者数	市区	学校名	回答者数	市区	学校名	回答者数
新発田市	本丸	187	江南区	曾野木	93	三条市	大島	25
新発田市	第一	134	江南区	大江山	68	三条市	大島小**	11
新発田市	猿橋	202	東区	下山	109	三条市	須頃小**	14
新発田市	佐々木	27	東区	東石山	152	三条市	下田	75
新発田市	東	55	南区	白井	29	三条市	栄	79
新発田市	七葉	67	南区	月潟	32	見附市	見附	90
新発田市	加治川	46	南区	白根第一	123	見附市	今町	75
五泉市	川東	45	南区	白南	34	見附市	南	86
阿賀野市	安田	84	南区	味方	36	見附市	西	117
阿賀野市	笹神	61	西蒲区	潟東	43	佐渡市	両津	66
聖籠町	蓮野小*	45	西蒲区	巻西	113	佐渡市	相川	42
聖籠町	山倉小*	50	西蒲区	岩室	74	佐渡市	高千	8
聖籠町	亀代小*	52	西蒲区	中之口	53	佐渡市	佐和田	53
北区	岡方	35	西区	五十嵐	31	佐渡市	金井	60
北区	光晴	90	西区	坂井輪	174	佐渡市	新穂	29
北区	松浜	116	西区	小針	325	佐渡市	畑野	31
北区	南浜	23	西区	赤塚	45	佐渡市	松ヶ崎	6
北区	木崎	63	西区	中野小屋	23	佐渡市	真野	52
北区	早通南小※	123	西区	内野	186	佐渡市	羽茂	29
秋葉区	金津	58	弥彦村	弥彦	74	佐渡市	赤泊	16
秋葉区	小合	25	三条市	第一	165	佐渡市	内海府小中	6
秋葉区	新津第一	154	三条市	第三	106	佐渡市	前浜小中	13
秋葉区	新津第五	147	三条市	第四	86	佐渡市	小木小***	27
秋葉区	新津第二	172	三条市	本成寺	106			
江南区	横越	98	三条市	大崎	95	合計		5,544

※早通中学校区、\*3 小学校は聖籠中学校区、\*\*2 小学校は大島中学校区、\*\*\* 小木中学校区

表2 地域別調査実施率と回答率

	中学校区数	調査校区数	実施率 (%)	中学1年生の在籍数*	有効回答数	回答率 (%)	*但し聖籠町は小学6年生の在籍数。いずれも平成25年度学校基本調査による。
新発田市	10	7	70	921	718	78.0	
五泉市	5	1	20	486	45	9.3	
阿賀野市	4	2	50	398	145	36.4	
聖籠町	1	1	100	154	147	95.5	(但し、蓮野、山倉、亀代3小学6年生対象)
北区	8	6	75	657	450	68.5	(但し、早通中学校区は南早通小6年生対象)
秋葉区	6	5	83.3	713	556	78.0	
江南区	6	3	50	626	259	41.4	
東区	7	2	28.6	1,085	261	24.1	
南区	6	5	83.3	389	254	65.3	
西蒲区	6	4	66.7	523	283	54.1	
西区	8	6	75	1,338	784	58.6	
弥彦村	1	1	100	76	74	97.4	
三条市	9	8	88.9	900	762	84.7	(大島中学区は大島小11人、須頃小14人を含む)
見附市	4	4	100	389	368	94.6	
佐渡市	14	14	100	449	438	97.6	(内、前浜小8人、内海府小4人、小木小27人含む)
	95	69	72.6	9,104	5,544	60.9	(調査校数の合計は73校)

本調査の対象ではないが、筆者が2013年3月に同様の方法で行った燕市全中学校区663名(燕中、燕北中、吉田中、分水中は1年生、小池中学校区の大関小、小池小学校は6年生対象)の調査結果(佐々木2013)も参照できるように、以下の各図には各校の円グラフも表示してある。なお、これらの全データは<http://nuisjanken.jimdo.com/> 調査データ / を参照されたい。

表2から分かるように、五泉市や新潟市東区、阿賀野市、新潟市江南区では当該地域の半数以下の中学生からしか回答を得られなかった。学区が違うとまったく異なったかけ声が使われることもあるので、この地域ではさらに協力校を増やして調査したい。

### 3. Picasa ウェブアルバムと Google Earth を使った言語地図の作成手順

2チーム分けジャンケンのかげ声の分布図を作成するに当たり、はじめに学校ごとに、各語形の割合を示す円グラフをエクセルで作成した。パリエーションが多かったため、後半部分が同じかけ声は同じグループにまとめ、似たものは似た色になるようにして、グラフを作成した。無回答もあったが、一人で2つ以上のかげ声を書いてくれた回答者もいたので、回答者数と回答数は一致しない学校もある。学校ごとの集計には複数回答も含めてあり、各語形の割合は学校全体の回答数に対する割合となっている。また、学校ごとに回答数は異なるが、円グラフはすべて同じ大きさである。これらエクセルで作成した円グラフは、webページとして保存すると、各グラフがそれぞれ別の画像ファイルとして保存されるので、Picasa ウェブアルバムにそれらをアップロードする。Picasa ウェブアルバムに備わった「場所の編集」機能を使えば、各円グラフは、学校の住所や学校名を入力するだけで、グーグルマップや Google Earth 上の当該校の位置に表示できる。

このようにして作成した地図を用い、2チーム分けジャンケンのかげ声それぞれどのような分布をもち、相互にどのような関係があるのか、以下に見ていく。

### 4. 佐渡市における2チーム分けジャンケンのかげ声

はじめに、全調査校を鳥瞰できる図1を示す。ただし、これは本稿用に簡略化し白黒で作成しなおしたものである。より詳細で見やすいカラー版は図1下のURLから参照されたい(注8)。

図1 2チーム分けジャンケンのかげ声の分布



<https://picasaweb.google.com/102913697562657670677/2?authuser=0&feat=directlink>  
カラー版 URL は以下の通り。

<https://picasaweb.google.com/102913697562657670677/20132?authuser=0&feat=directlink>

図2 佐渡島における2チーム分けジャンケンのかけ声



図3 円グラフを拡大したところ

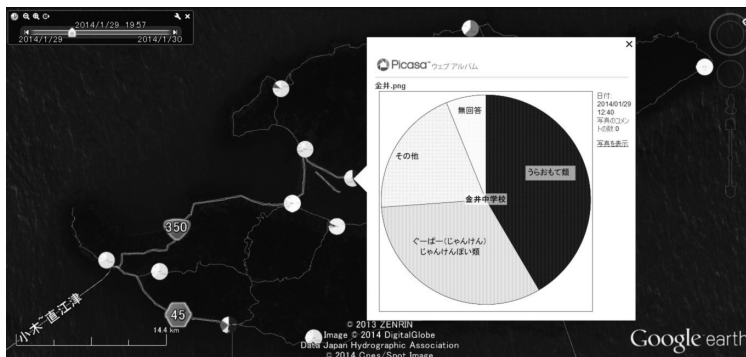


図2は図1の佐渡島部分を拡大し、Google Earthのレイヤ機能を使って交通路を表示し、学校名を入れたものである。各円グラフは最大サイズで表示してあり、この画面では、これ以上大きくできないが、円グラフをクリックすると、図3のように拡大される。また、拡大された円グラフの囲みの右端にある「写真を表示」をクリックすると、Picasa ウェブアルバムが開き、より大きな図と、同じアルバムにあるすべての画像が見られる。また、そこには図の下に写真の説明欄やコメント欄があり、双方向のやり取りもできるようになっている。

図2では各円グラフが見づらいが、円グラフの白、薄い灰色の部分は「グー」と「パー」を使ったかけ声で、佐渡市全体では「ぐーぼーじゃんけん じゃんけんぽい」や「ぐっぼー (ぐっぼー) じゃんけんぽい」などが広く使われている。中心部から離れた内海府小中学校では「ぐっぼーぐっぼー ぐーっとば」、前浜小中学校では「ぐーっとぐっと ぐっっとば」が多く使われている。高千中学校では「ぐーちゅーじゃんけん じゃんけんぽい」類が使われているが、手の型はわからない。また内陸部の新穂中、畑野中は「ぐっとなば」を使うという生徒が3分の2近くを占めている。新潟市北東部で主流の「ぐーろっぱ」類は、「ぐーろーぐーろー ぐーろっぱ」が、佐渡市西部の佐和田中で回答数の約3分の2を占めている以外、市内には見られない。両津港は新潟港とフェリーで結ばれているため、新潟市の影響が強いのではないかと予想したが、両津中でも使われていない。両津中では「ぐっぼーぐっぼー ぐっぼーちえす」と、佐渡市全体に広がる「ぐーぼーじゃんけん じゃんけんぽい」がそれぞれ3分の1程度を占めていた。

佐渡島中心部にある調査対象生徒数が両津中に次いで2番目に多かった金井中（図3）では、約3分の1の生徒から「うらうら うらうら うらおもて」を使うという回答があった。また、4 kmほど南東にある畑野中でも少数ながら同じかけ声を使う生徒がいた。一方、赤泊中では、同じように手の甲と掌を使うが、かけ声は「うーらおもて」や「うらおもて」と、短くなっている。同じ市内とは言え、赤泊中は金井中から直線距離で17kmほど離れている。伝播の経路が違うのか、あるいは寺泊方面から航路を伝って赤泊から先に入ったため、赤泊では省略が先に進んだのか、この調査では判然としない。もう少し上の世代に調査対象を広げて調べる必要があるだろう。

## 5. 「うらおもて」類のかけ声の分布

次の図4は、今回の調査校と、佐々木（2013）の調査校の中で、「うらおもて」類が最多回答だった学校に、ピン型の印を付したものである。「うらおもて」類をピンクで目立つように示したカラー版（<https://picasaweb.google.com/102913697562657670677/20132?authuser=0&feat=directlink>）を参照されたい。

図4の各校に隣接する学校の中には回答に「うらおもて」類が含まれている学校もあるが、いずれも少数派である。また、それぞれの学校のかけ声は微妙に違っていて、吉田中（燕市）では「うらうら うらうら うらおもて」の割合が多く、全体の約3割にもほぼる。なお、この5校中、吉田中が、「うらおもて」類を答えた人数が最多であった。このほか同中学校の回答には、「うらうらうら うらおもて」が数名いる他、「うら」の回数にばらつきがあった。記入ミスなのか、実際にそうなのか、確認できなかった。また「うらおもて」と答えた生徒も2名いたが、この場合は、実際のかげ声なのか、名称を言ったのか、はっきりしない。また、隣の弥彦中でも1割程度「うらおもて」類を使う生徒がいるが、「うーらうーら うらおもて」が多い。さらに、もう一方の隣である三条市の大島小では全員が「うらうら おーもて」類で、見附市今町中では「うーらって」というかけ声が多く使われている。このように、「うらおもて」類と言っても、主流のかげ声は学校によって微妙に異なっている。（カラー版では、それぞれ色分けして表示してある。）

また、特に興味深いのは、大島小で全員が「うらうら おーもて」類を使うのに対し、彼らの一学年上の先輩で、調査対象となった大島中の1年生には「うらうら おーもて」類の回答が

図4 「うらおもて」類が最多回答の学校とその位置

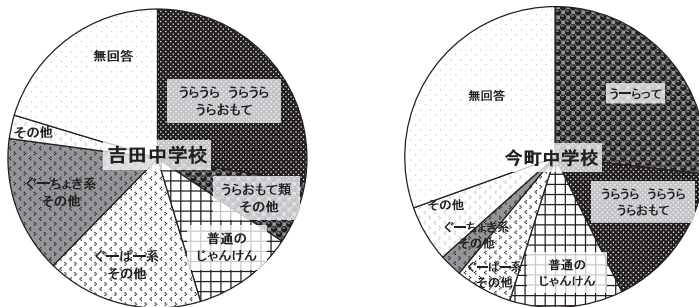


一つも見られなかった点である。大島中の大島小出身生徒は「ぐーりっちょ はーさみ」類が多数派だった。一方、同中学校区内のもう一つの小学校、須頃小で主に使われている「ぐーちーじゃんけん」類は、須頃小の卒業生が、大島中で引き続き使っている。これは出身小学校についてのデータからわかったことである。このことから、比較的規模の小さい学校では、1学年違うだけでも、かけ声が異なることもあると言える。これが一時的な流行語なのか、あるいは、今後、下級生にも広まっていき、この地域の新方言となるのか継続的に追跡したい。

図4から、「うらおもて」類のかけ声は、佐渡市（金井中、赤泊中）以外では、おおよそ県央地域に集まっているように見えるが、学区が必ずしも隣接しているわけでないため、伝播のルートについては、この調査だけでは分からない。また、上述の通り、1学年でも違えば、学校での調査結果には大きな違いが出てくることもあるから、経年調査や多年齢層での調査が必要である。

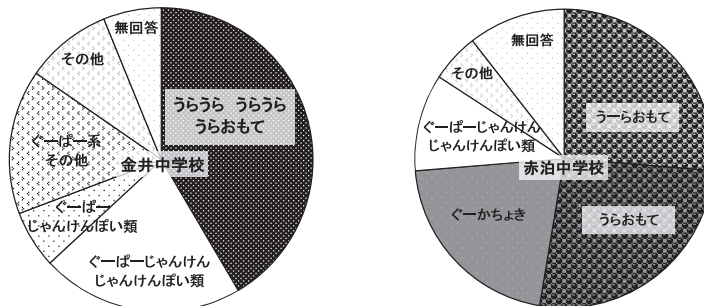
次の図5は、吉田中・今町中の円グラフの「その他」から「普通のじゃんけん」を取り出し、多少色を変えて作ったものである。（カラー版では「普通のじゃんけん」を黄色で示してある。）両者は「普通のじゃんけん」が「うらおもて」類のかけ声に次いで多く、「無回答」が多い点が似ている。これについて佐々木（2013）は、吉田中学校区では、2チーム分けジャンケンの言い方が最近まで特になく、普通のジャンケンの勝ち負けでチーム分けしていたところへ、「ウラオモテ」が入ったため、競合する2チーム分けのかけ声がなく、広まりやすかったのではないかと論じた。しかし、「うらおもて」類が最多回答の金井、赤泊両中学校（佐渡市）は、図6に示すように、これとは異なった様相を呈している。こちらは「その他」の中に、「普通のじゃんけん」

図5 吉田中学校（燕市）と今町中学校（見附市）の2チームわけジャンケンのかけ声の割合



このグラフは、上記地図中のグラフの「その他」から「普通のじゃんけん」を分けて表示したものである。

図6 佐渡市金井中学校と赤泊中学校の2チームわけジャンケンのかけ声の割合



この地図中のグラフの色を一部変えてあるが、もともと「その他」には「普通のじゃんけん」は含まれていない。

はもとから含まれていなかったし、他の2チーム分けのかけ声も多く見られ、「無回答」も目だつて多くはない。これらのグラフの違いには、伝わった時期や伝わり方の違いが現われているのではないかと考えられる。引き続き調査して、検証していきたい。

## 6. 新潟市とその周辺地域の2チーム分けジャンケンのかけ声

図7に新潟市とその周辺地域のかけ声の分布図を示す。主要なかけ声の大まかな種類と、使われているおおよその範囲を書き加えた。太い白線は「グー」と「パー」を使う地域と「グー」と「チョキ」を使う地域の暫定的な境界線である。また、細い白線(カラーでみると水色)は市の境界線である。三条市に隣接する加茂市、田上町では調査できず、これらの市町と新潟市の境界地域の中学校でどのようなかけ声が使われているか、確認できなかった。しかし、佐々木(2012)では、当時の大学生で、生育地が加茂市、田上町の学生の回答によると、加茂市では「ぐーとつぱ」、田上町では「ぐーばーぐーばー ぎっちょんえす」というかけ声があがっていた。また、五泉市出身者では、6名中2名が「ぐーちーだ」で、他は「ぐーとつぱ」類を使うという。これらを元に、「グー」と「パー」を使う地域と、「グー」と「チョキ」を使う地域の暫定的な境界線をひいてみた。新発田市側から西の、新潟市北区、江南区方面へ、「グー」と「チョキ」が入りこんでいたり、所々、飛び地のように「グー」と「パー」以外のものが見られたりするものの、画面中央、新潟市を中心とする地域では「グー」と「パー」が使われ、その両側、燕市、三条市、新発田市などでは「グー」と「チョキ」が使われていることがわかる。「チョキ」と「パー」で「ちよーば」というかけ声が多い分水、味方両中学校には△印をつけた。

新潟市内のかけ声について見ると、「ぐーろぐーろ ぐーろっば」類が東北側で優勢である。中央区では調査しなかったが、佐々木(2012)でも「ぐーろぐーろ ぐーろっば」類が優勢であった。関屋分水(信濃川支流)をはさんで、対岸にあたる西区では「ぐーとは」や「ぐーとは」が主なかけ声となっている。さらに西側の西蒲区では学校ごとに様々なかけ声が使われているが、巻西中以外は「ぐーばーぐーばー ぐーばっば」類、「ぐーとぐーと ぐーとつぱ」類など、「グー」と「パー」を使うものが圧倒的である。弥彦村と学区が接する岩室中では、弥彦中と同様、「ぐーばっば」が多数派である。また、西蒲区南西端に位置する中之口中では、飛び地的に「ぐーろぐーろ ぐーろっば」が多数派を占めている。

南区(2005年の合併前は白根市)には、燕市分水中と同様に「チョキ」と「パー」を使う「ちよー

図7 新潟市及び周辺地域の2チームわけじゃんけんのかけ声の分布





ば」というかけ声が回答の4分の3近く占める味方中がある。また同区白南中でも「チョコキ」と「パー」を使う「いーはーやす」というかけ声が4分の1程度あった。しかし、白南中では、「ぐーばぐーば ぐーろっば」という「ぐーろっば」と「ぐーば」の混合形ともみえる回答が約3割を占め、最多だった。「ぐーろっば」類の南方への進出の一端を示している。それ以外の南区の中学校は、「グー」と「パー」を使う「ぐーば ぐっばーや」や、調査地域全域で広く使われている「ぐっとっば」類が多い。

秋葉区も「グー」と「パー」を使うものが多いが、特徴的なのは、「ぐっばーまっかーだ」というかけ声で、新津第1、第5中学校で多くの生徒が使っている。このかけ声は佐々木（2012）でも、同区出身の大学生が使うと回答していた。少なくとも、すでに10年は使用されていることになる。また、秋葉区では新津第2中だけが「グー」と「チョコキ」を使う「ぐっとっちょ」というかけ声が使われている。これは、調査地域で広範囲に使われている「ぐっとっば」のグーチョコキ版と言えらるだろう。また、新津第2中周辺は、比較的新しく開発されたニュータウンが多いことから、外部から新しいかけ声が持ち込まれたのか、あるいは、距離的に近い江南区横越中の「ぐっちょっちょ」に影響を受けたのか、自然発生したのか、本調査だけでは分からない。同じように、区内小合中では、「ぐっちーまかち」という「ぐっばーまっかーだ」のグーチョコキ版ともいえそうなかけ声が約3分の1を占めている。

より多くの年齢層を対象にした調査で確認する必要があるが、中学生1年生を対象とした本調査の結果を見ると、各地域の中心で、早くから開けていたところでは「ぐーばー」類のかけ声が使われていて、後から開けたところで、その地域の「ぐーばー」のかけ声をもとにした「ぐーちょき」類のかけ声が、「ぐーばー」類に対抗するように使われるようになっていったように見受けられるところがある。

北区では、光晴中で「いすといすとはーさみ」という「グー」と「チョコキ」を使うものが半数以上を占める他は、「ぐーろぐーろ ぐーろっば」類が一般的なかけ声だといえる。隣接する聖籠町（聖籠中学校区）の3小学校では、「ぐっとっば」類が多数派だが、蓮野小では「ぐーろっばーや」というかけ声も3分の1程度見られ、「ぐーろっば」の、この方面への伸びが今後どうなるか気になるところである。

新発田市はほとんどの中学校で「ぐっとっち」が半数近く占めるが、最も新潟市寄りの佐々木中で「ぐっちっち」、最北の加治川中で「ぐーどっち」が最多のかけ声となっている。しかしいずれも、「ぐっとっち」を使うと答えた生徒が含まれており、新発田市の代表的なかけ声と言えらる。

阿賀野市は2校、五泉市は1校しか調査できなかったため詳細は別稿に譲り、新潟市の南西側、中越地方に位置する見附市、三条市について見ていく。

見附市には4つの中学校区があり、前述のとおり、今町中だけで「うらおもて」類が最多回答になっている。「うーらって」が全体の2割強、「うらうら うらうら うらおもて」が1割強を占める。見附市では、今町中以外では、いずれも「グー」と「チョコキ」を使うものも多く、見附中では「ちーぐっしょ」が約半数、西中では同じく「ちーぐっしょ」が約3分の2の割合を占めている。南中では「ぐーちーえす」が3分の2弱で多数派である。ちなみ「〇〇えす」や「〇〇いえす」というかけ声は、新潟市西区の赤塚中「ぐーはーいえす／ぐーはーえす」や南区「ぐーはーやす」など、散発的に見られ、この地域の普通のジャンケンでかつて使われていた「ちえーろーえす」などの名残ではないかと考えらる（注9）。

見附市に隣接する三条市には中学校区が9あり、そのうち8中学校区から回答が得られた。

三条市の中でも、栄、下田両中学校（2005年に合併する前は南蒲原郡）以外は、「グー」と「チョキ」を使うものが多い。但し、かけ声は、第1中では「くっくっくーとみ」、第3中では「ぐーとみーい」、第4中では「ぐっちょーはーさみ」、本成寺中では「ぐーちーはーさみ」、大崎中では「ぐーっちょ」、大島中では「ぐーりちょはーさみ」と「ぐーちーじゃーんけん」がそれぞれ代表的なかけ声となっている。生徒数の多い学校では、近隣の学校で使われているかけ声を答えた生徒もいた。しかし、隣接する燕市の各中学校で使われる特徴的なかけ声は三条市の回答には見られなかった。「三条市と燕市は仲が悪い」という風説が地元にあるが、こうしたことが影響しているのかどうかはわからない。燕市と見附市では、いずれも中学校区ごとの代表的なかけ声それぞれ異なっている点共通点だといえるだろう。今回は扱えなかったが、使用意識や校風や地元に対する意識などもあわせて調べてみたい。

栄中では「ぐー（っ）ぱ」、「ぐっぱ」が半数程度、下田中では「ぐっとっぱ」類が3分の2程度を占めた。東隣の加茂市や田上町、五泉市の詳細な調査を待って、阿賀野市の「ぐっとっぱ」（安田中学校）や「ぐーぱ」（笹神中学校）との関連を探りたい。

## 7. Picasa ウェブアルバムと Google Earth で作る言語地図

本稿で試みたように、Google Earth 上の学校所在地にその学校の円グラフを表示して語形の分布を示す言語地図は、パソコン等でカラーの画面を見ると非常に見やすいが、本稿のように白黒にすると大変見づらい。本稿を見れば印刷向きではないことは明らかである。一方、Google Earth は、現地を知らなくても、宅地か山林かなどを確認できたり、川や山などの自然の障害物の有無や交通網の発達具合などを調べたりできるので、自然地理的、人文地理的要素の言葉の伝播への影響を考える上で参考になる。今回の調査結果は、ウェブ上でカラー表示することを前提に作図したが、バリアフリーの観点からは、もう少し工夫の余地がある。また、Google Earth の画面に表示される画像のサイズと文字の大きさなどは3段階でしか変えられない点は、地図を作成する上で不便である。しかし時系列でデータが集まれば、その変化を動画で表せるので、まさに変化を目の当たりにできるはずで、使い次第で、様々な可能性が広がるだろう。

これまで言語地図を作る際に、無料の地図サイトからダウンロードした白地図を利用し、所定の場所に記号やグラフなどを入れる作業を手作業でしてきた筆者にとっては、住所や学校名の入力だけで、簡単に Google Earth 上やグーグルマップ上に画像を入れられる Picasa ウェブアルバムの「場所の編集」機能は非常にありがたいツールであるが、そもそも Picasa ウェブアルバムは画像・動画ファイルの共有ソフトなので、情報共有やコメントのやり取りなど双方向に使う上で、効果を発揮するものだと考える。これらの機能を使うことで、調査者・被調査者の関係がより対等で相互的なものになっていく可能性もあるだろう。例えば、Picasa は動画も地図上に表示できるので、2チーム分けジャンケンをしている様子の動画を各学校で撮影して投稿したり、メールで送ったりしてもらって、動画地図を作ることも可能だ。顔などが入らないようにするなどプライバシーに配慮する必要はあるが、アンケート用紙に記入するよりも、友だち同士で撮影して Picasa ウェブアルバムに投稿し、自分たちで地図を作れば、より積極的に調査に参加してもらえるかもしれない。また、動画なら手の型や出すタイミング、かけ声のイントネーション、決まらない（「あいこ」の）場合どうするかなどもわかり、より多くの情報が得られる。バリアフリーの観点からも、色分け表示だけでなく、音声があればより望ましいといえる。

これまで、方言データの収集、言語地図の作成、利用といえば、ほとんどの場合、研究のため

であったが、井上（2007）が「方言娯楽の時代」であると指摘したように、様々な人が消費者として各地の「方言」を楽しむ段階を迎えた。21世紀はさらに「方言参加」の時代を予感させる。田中（2011）の「方言コスプレ」（注10）はその一つの例といえるだろう。方言調査の協力者を得るのが難しくなっている昨今、被調査者がイベントに参加するような感覚で積極的に取り組める参加型の方言調査ができるような仕組み作りにも、Picasa ウェブアルバムなどの利用は有効だと考える。今後は、こうした機能も活用していきたい。

## 8. 終わりに

本稿は多くの人の協力のおかげで成ったものである。グーグル社の各種サービスに負うところが大きいのは言うまでもないが、特に、調査に際して調査票送料の実費を負担し、各学校と連絡をとり、データを集計し、レポートを通じて、様々な地元の情報を提供してくれた新潟国際情報大学の日本語学受講生の皆さんにこの場を借りて深甚の謝意を表したい。また、忙しい中、快く調査にご協力くださった各小中学校の先生方、児童、生徒の皆さんにも心から感謝したい。

### 〈注〉

注1 Picasa ウェブアルバムは、Google 社の提供する写真共有サービスで、グーグルのアカウントがあれば、ウェブ上に写真や動画をアップロードして共有したり、グーグルマップや Google Earth 上に、それらの写真を表示させたりできる。このサービスを利用するにはグーグルのアカウント（無料）が必要であるが、公開されたアルバムは誰でも見る事ができ、そこからグーグルマップ、Google Earth などを表示させることができる。

注2 Google Earth（グーグルアース）は Google 社の提供する無料のソフトで、地球上の様々な場所の衛星写真や建物の3D画像を表示したり、住所などで場所を検索したりできる。また、GPSなどの位置情報、時間情報の入ったファイルなどを読み込んで、地図上に表示することもでき、画面に加えた情報を KML ファイルで保存することもできる。

(<http://www.google.co.jp/intl/ja/earth/>)

注3 谷謙二氏の開発した地理情報システム（GIS）で、各種のデータを地図に表示することができるフリーソフト。( <http://ktgis.net/mandara/> )

注4 例えば、国立国語研究所の『日本言語地図』や『方言文法全国地図』など。

注5 日本大学文理学部 日本語日本文学班プロジェクトの詳細は下記 URL を参照のこと。

[http://www.chs.nihon-u.ac.jp/jp\\_dpt/nichigo-nichibun/index.html#content\\_05](http://www.chs.nihon-u.ac.jp/jp_dpt/nichigo-nichibun/index.html#content_05)

注6 Phonemica 𠂇音苑（響音苑）は、グーグルマップ上に中国語の方言の分布が見られ、地図上の方言別の目印をクリックすると、その音声聞けるサイトである。<http://phonemica.net/>

注7 調査票の見本は、〈参考文献〉の前に掲載した。

注8 図1下の各URLはPicasaウェブアルバムの、地図上にあるすべての円グラフが入ったページである。これを開くと、ページ右下に「写真の場所」が示された小さい地図がある。この地図の下の青い字で書いてある「マップを表示」または「Google Earthで表示」をクリックすると、すべての円グラフが地図上の調査対象校の位置に表示された大きな地図が見られる。但し、Google Earth画面のほうが大きく見やすい。

注9 調査協力校の一つ、早通南小学校では、先生方も何人か本調査に回答を寄せてくださった。その中にも、25年前白根市（現在新潟市南区、三条市にも接する）で「ちえーろーちえーろーちえーろえす」を使うという記述があった。他にも、佐々木（2012）や「うちのじゃんけん」というサイト <http://fukumame.pro.tok2.com/sin/jankenmain.html> などにも見られる。

注10 田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代——ニセ関西弁から龍馬語まで——』（岩波書店）で指摘されたように、各方言がもつイメージを基にして、地元の方言ではない方言を、「コスプレ」を楽しむように使うこと。

#### 〈調査票 見本（実物はA5サイズ）〉

<p>新潟県のじゃんけんの掛け声について調べています。皆さんが<b>学校で友だちとじゃんけんするときの掛け声</b>を教えてください。</p> <p>1. 普通のじゃんけんの掛け声を教えてください。最初から省略しないで書いてください。 例：さいしよは ぐー、じゃんけんぽい</p> <p>2. 2つのチームに分かれるときの掛け声を教えてください。最初から省略しないで、書いてください。 例：ぐーばーじゃんけん ぐっとっぴ</p> <p>3. 出身小学校を教えてください。 _____市立 _____小学校 (但し、小学生用の調査票には、3. の質問はない)</p> <p>4. <b>自分と違う</b>言い方のじゃんけんを聞いたことがあったら、教えてください。</p> <p>どんな掛け声でしたか? _____ 普通のじゃんけん・2チームわけじゃんけん<b>どちらですか?</b>(○をつけてください) いつごろですか? _____ 場所はどのへんですか? _____市 区・町 何歳くらいの人が言っていましたか? ○をつけてください 年下 同年代 先輩 大人 老人 ありがとうございました。 新潟国際情報大学(日本語学担当 非常勤講師) 佐々木香織 literakoya_niigata@yahoo.co.jp</p>
--

#### 参考文献

井上史雄（2007）『変わる方言 動く標準語』（ちくま新書）

井上史雄（2011.2）「Google 言語地理学入門」（明海日本語 第16号、pp.43-52）

<http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/16/043inoue.pdf>

佐々木香織（2012）「新潟県における2チーム分けジャンケンの掛け声の分布」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要 15、pp.15-24）

[http://www.nuis.ac.jp/ic/library/kiyou/15\\_sasakik.pdf](http://www.nuis.ac.jp/ic/library/kiyou/15_sasakik.pdf)

佐々木香織 (2013) 「燕市における 2 チーム分けジャンケン」 (明海日本語 第 18 号増刊号 井上史雄先生古稀祝いオンライン論文集、pp.113-128)

[http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/18ex/06\\_sasaki.pdf](http://www.urayasu.meikai.ac.jp/japanese/meikainihongo/18ex/06_sasaki.pdf)

福島 秩子 (2012.9) 「コンピュータによる言語地図の作成と総合 (特別セッション 方言分布と計量 (1))」 日本行動計量学会大会発表論文抄録集 40 (pp.341-344)